「主体的・対話的で深い学び」につながる学習指導法の改善

～全職員による授業研究を通して～

十島村立諏訪之瀬島小・中学校

1　研究のねらい

本校の学校教育目標である「自分をみがく　共にみがく　未来をきずく」を基に，昨年度は，「『考え，議論する道徳』の充実を目指して～他教科との連携を通して～」をテーマとして，実践・研究に取り組んだ。それらの成果と課題は，道徳を主体としながらも，他教科に生かすことを目標として研究を進めてきた。

また，昨年度は，県「コアスクールプロジェクト」の鹿児島地区「エリア推進スクール」に指定されたことから，ＩＲ法を使った授業研究にも取り組むこととした。「校種・教科を越えて全職員で取り組む職員研修」を目標に，授業の中で「児童生徒の活動を見取る力」を身に付け，そこから課題を見い出すことで授業改善につなぎ，児童生徒の学力向上を図ることを目的として授業研究の行い方にも重点を置いて取り組んできた。

2　研究の概要

これまでの研究の成果である発問の工夫を中心とした授業改善を生かしながら，昨年度取り入れた授業研究の在り方（ＩＲ法）の研究にスポットを当てて，授業改善のために何が必要で，何ができるのかを明らかにしたいと考えた。また，主体的・対話的で深い学びの主役である児童生徒が確かな力，生きて働く力を身に付けるためには，担任や教科担任だけでなく，関わる職員全員がスキルアップしなければならないと考え，サブテーマに「全職員による授業研究を通して」と掲げて取り組むことにした。

3　研究の内容

（１）　「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善

ア　発問の工夫

教師による発問は,児童生徒が教材の道徳的価値について自分自身のこととして捉えたり，物事を多面的・多角的に捉えたりすることを促すものとして重要である。また，教材の内容についてどのように適切な発問を行っていくかが大切である。さらに，簡潔な発問にすることも大切である。

イ　教具や提示資料の工夫

児童生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう，教材・教具等の適切な活用を図ることが大切である。

（２）　「主体的・対話的で深い学び」を実践するための授業研究の工夫

ア　授業参観の視点

昨年度コアスクールプロジェクトのエリアスクール推進校の指定を受け，そこで取り入れられていた「授業参観の仕方　児童生徒を見取る姿」を職員研修で取り上げ，授業参観を行い，授業研究に臨んだ。

イ　授業研究の仕方（ＩＲ法）

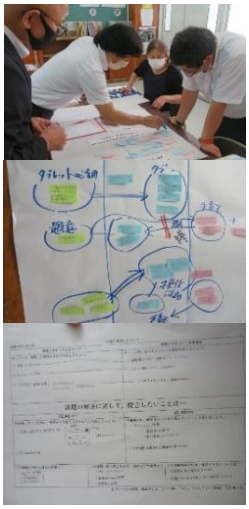
授業研究においては,「児童生徒の見取り」の結果に基づいて行うようにした。そうすることで学年や校種・教科に関係なく活発な意見交換ができるようにした。

4　研究の実際

（1）　授業参観

児童生徒の様子・教師の様子・内容の３つの事実をしっかりと見取るために，担当を割り振って児童生徒を観察する。観察シートに見たことや聞いたこと，行ったこと，活動内容などをそのまま書いていく。その際に，観察者の解釈（～ではないだろうか）や提案（～の方がいいのではないか）は書かないようにする。

（2）　授業研究



観察シートに書いた授業参観で見取った事実を，色違いの付箋に書き出し，広幅用紙に振り分けながら貼っていく。ただ貼るだけでなく，グループ内で対話しながら情報を共有していく。貼り出しながら，追加したい事実が出てきた場合は，その都度追加しても構わない。

共通した意見の付箋をまとめ，見出しを付け，学習内容と教師の手立てにより児童生徒の活動がめあてに近付いているかを検証する。この際，うまくいったこともうまくいかなかったこともまとめていく。まとめた中で，うまくいかなかったことを児童生徒の立場になって，今後どのように改善していけばよいか検討する。

検討したことを基に，展望シートへ項目に従ってまとめていく。この際，書けるところを埋めていけばよい。一番大事にしたいところは，発見した課題を短期的や長期的にどう取り組んでいくのかを明確にすることである。

（3）　事後の取組

展望シートに書いた短期的，長期的改善策について，翌日以降取り組んでいくようにする。取り組みながら，課題点や改善点が更に出てきた場合は，研修の時間だけでなく，職員朝会や休み時間などの時間を利用して情報交換を行うようにする。

5　研究のまとめ

(1)　成　果

- 事実から学ぶということで，教師（参観者）の推測が飛び交う授業研究とならず，活発な意見交換ができる，一人一人が主体的に参加する研修となった。
- ＩＲ法によって事実に即した授業や児童生徒の様子を見取ることができた。そのことで，課題に気付くことができ，授業改善の具体策を明らかにすることができた。
- 指導方法を改善するに当たって，児童生徒の表情や態度，つぶやきに注目することが大切な要素であることを改めて感じた。

(2)　課　題

- 授業研究後，明らかになった課題について取り組み，その経過や結果を全員で確認する時間が取れなかった。そのため，指導方法改善の深まりにつなげることができなかったと感じる。
- 児童生徒の学習活動を見取る力を身に付けることの大切さが分かったが，よりよい授業改善に向けて，普段の授業で，授業者が一人で見取るための方法も探究していかなければならない。
- 研究授業の際，一人で学習内容，教師の様子，児童生徒の様子を見取るようにしたが，事実の見取り方を工夫すると，より適切に事実の見取りができ，授業研究の深まりが更に出ると思う。

6　今後の取組

今年度の研究の成果及び課題について，機会あるごとに全教職員で共通理解を図りながら日々の実践に取り組み，今後も児童生徒及び教職員の深い学びにつながるようにしていきたい。